

2 調査結果

令和2年度第4四半期(令和3年1月～3月)における環境放射線等の調査結果は、これまでと同じ水準であった。

原子燃料サイクル施設からの影響は認められなかった。

(1) 空間放射線*

モニタリングステーション、モニタリングポスト及びモニタリングカーによる空間放射線量率測定並びにRPLD(蛍光ガラス線量計)による積算線量測定を実施した。

① 空間放射線量率(NaI)

(a) モニタリングステーション及びモニタリングポスト

各測定局における測定値は表 1-1、図 1-1 及び図 1-2 のとおりであり、平常の変動幅を上回った測定値は、すべて降雨等によるものと考えられる。

また、野辺地局において平常の変動幅及び過去の測定値の範囲を下回った測定値並びに千歳平局、吹越局、東北町役場局、東北分庁舎局、三沢市役所局及び老部川局において過去の測定値の範囲を下回った測定値があったが、積雪の影響によるものと考えられる。

表 1-1 モニタリングステーション及びモニタリングポストによる空間放射線量率(NaI)測定結果 (単位:nGy/h)

	実施者	測定局	測定値	平常の変動幅を外れた原因と時間数(単位:時間)		平常の変動幅	過去の測定値の範囲
				施設起因	降雨等		
モニタリングステーション	青森県	尾 駸	9 ～ 44	0	6	8 ～ 38	8 ～141
		千 歳 平	11 ～ 46	0	12	11 ～ 35	12 ～ 73
		平 沼	11 ～ 42	0	16	10 ～ 32	11 ～ 74
		泊	9 ～ 62	0	17	6 ～ 36	9 ～130
		吹 越	13 ～ 37	0	7	13 ～ 33	15 ～ 93
		比較対照(青森)	15 ～ 56	0	23	15 ～ 39	15 ～ 81
	事業者	老 部 川	10 ～ 37	0	14	9 ～ 31	11 ～114
		二 又	11 ～ 42	0	13	8 ～ 34	11 ～133
		室 ノ 久 保	13 ～ 40	0	18	11 ～ 31	12 ～ 77
モニタリングポスト	青森県	横 浜 町 役 場	17 ～ 40	0	19	12 ～ 32	17 ～ 95
		野 辺 地	21 ～ 54	0	150	24 ～ 40	24 ～ 80
		砂 子 又	12 ～ 49	0	37	9 ～ 33	12 ～ 93
		東 北 町 役 場	13 ～ 56	0	38	11 ～ 31	14 ～ 75
		東 北 分 庁 舎	13 ～ 48	0	41	11 ～ 31	14 ～ 66
		三 沢 市 役 所	13 ～ 48	0	38	12 ～ 30	14 ～ 63

- ・「平常の変動幅」は平成27～令和元年度の測定値の「平均値±(標準偏差の3倍)」。
- ・「過去の測定値の範囲」は平成27～令和元年度の測定値の「最小値～最大値」。
- ・「施設起因」は、監視対象施設である原子燃料サイクル施設に起因するもの。
- ・「施設起因」と「降雨等」の影響が同時に認められた場合は、その主たる原因に分類している。

※:空間放射線は、降雨雪時に雨や雪に取り込まれて地表面に落下したラドンの壊変生成物の影響により増加し、積雪により大地からの放射線が遮へいされることにより減少する。また、医療・産業に用いる放射性同位元素等の影響により空間放射線量率が一時的に上昇することがある。なお「降雨等」とは、「降雨、降雪、雷雨、積雪等の気象要因及び地理・地形上の要因等の自然条件の変化」、「医療・産業に用いる放射性同位元素等の影響」、「国内外の他の原子力施設からの影響」などである。